

秀賞

少しずつ前進を

山形県金山町立金山中学校

2年 堀 慧花

去年の春、私が中学生になった時、担任の先生から「将来の夢は何？」と聞かれました。私は一瞬とまどい、答えました。「将来はイラストレーターになりたいです。」先生からは、またすぐに次の質問が飛んできて「やりたい理由は何ですか」と言われました。私はすぐには返事をする事ができませんでした。正直あまりよく考えたこともなかったからです。昔から絵やイラストを描くのが好きだったくらいしか理由が思いつかず、自分でも自信をもってうまく説明できるような気がしなかったので、先生にしっかりと答える事ができませんでした。入学したばかりの中学校では、一気に勉強が難しくなったり、部活動というものもあつたりと小学校の時とは違う初めてのことがたくさんで、私にとってはついていくだけで必死な毎日でした。

それから学校生活の中で何度か先生と面談する機会があり、進路や将来について話したりもしましたが、相変わらずぼんやりと答えることしかできませんでした。

学年が2年生に上がり、総合学習の授業で職業体験インターンシップをすることになりました。2年生全員がそれぞれ個別に職業体験を行う学習でした。将来の仕事に向けて学ぶ授業なので、私はどの職業を選択したらよいか、なかなか思いつかず、職種を選ぶのにとっても時間がかかりました。イラストの仕事をしたいとずっと考えていたこともあり、学校のリストにある職場の中で自分のプラスになる職場はどこなのか悩み、頭が真っ白になりました。

そんな時、家で家族とテレビを見ていたら障害者の人たちのいる施設について放送をしていました。その内容がとても印象に残り、その仕事について少し興味をもちました。父と母にも相談したら、「インターンシップの職場の中にも、障害のある人たちがお仕事している場所があるよ。」と教えてくれました。母は「絵やイラストを描いてあげて楽しくできることもあるんじゃないの。」と言って背中を押してくれたので、私はその職場に行くことにしました。

インターンシップが始まり、自分たちで体験施設への連絡や打ち合わせなどを行いました。私はいつもとは違う初めての緊張感と利用者さんへの対応がしっかりとできるのかが不安で、押しつぶされそうになりました。でも実際に行ってみると、利用者の皆さんはとても楽しく明るく、友達のように迎えてくれました。作業やふれあいをする中で、利用する方それぞれに合わせたコミュニ

ケーションの取り方を職場の方に数多く教えていただきました。歩けない方やおしゃべりできない方には、合図をしたり、絵やものなどを指したりして、その反応を見て気持ちを理解したりしました。会話できる利用者さんとは本人のお話を聞きながら一緒に行動を行い、必要に応じて補佐やお手伝いをしました。昼食やお昼休み、作業の合間にはトランプゲームや歌を聴いたり、好きなテレビやマンガの話をしたりしました。自分と同じマンガを好きな人もいて、イラストも一緒に描きました。その時に利用者さんたちが私の絵を「すごい上手」と褒めてくれて、喜んでくれて、私は嬉しくて心が温かくなりました。すごく気持ちを後押ししてもらえました。自分の中では自信が少しなくなっていたけれど、絵を描いて笑顔になっている姿をみて、改めて私は絵を描くことが好きでいて、今までイラストを描いてきてよかったなと思いました。

インターンシップは3日間という短い期間ではありましたが、自分の未来について深く考える時間になりました。自分が考えている夢とは違う職業を体験できたことで新しい発見もすることができました。病院や学校、施設などたくさん場所や仕事で絵やイラストを使って役にたてること、笑顔にできることがあるのではないかと感じました。自分が好きな絵は、仕事でプラスにできると考えられるようになりました。もちろん今の私の一番の夢はみんなが笑顔になれて楽しんでくれるものを描けるイラストレーターやアニメーターになることです。まだまだ、私の目指す未来は先で、大変なこともこれからもっと山ほどあると思います。でも私はあきらめずに努力して進んでいこうと思います。今度、担任の先生とお話する時には、自分の将来の夢のこと進路のことを、自信を持って伝えられたらいいなと思います。未来に向かって少しずつ進んでいきたいです。